

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901308		
法人名	有限会社 旭川ケアサービス夢		
事業所名	グループホーム夢 西ユニット		
所在地	旭川市春光台4条9丁目4-3		
自己評価作成日	H25年8月	評価結果市町村受理日	平成25年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺に介護施設が点在する緑豊かな福祉村にあり、自然豊かな広い敷地を有効活用している。ホールは拭き抜きの構造とし、陽光が自然と差し込む明るい環境の中で生活出来るようになっている。大浴場には大きな窓が有り、裏庭の木々を眺めながら入浴できる。居室にはトイレと洗面台が有り、プライバシーが確保されている。夏季には、入居者様と一緒に野菜作りを行い、収穫した苺やトマト、豆などをその日の食事やおやつに食べ、二重の楽しさを味わって頂けるようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosvoCd=0172901308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年9月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に建つ2階建て2ユニットの事業所で、大浴場や事務室を中心に、1階に東西2つのユニットが左右対称に位置している。事業所内はリビングの天窓効果で明るく、随所に手すりを設置し、安全で自立した生活が送られるように配慮しており、共有部分にはエアコンを完備している。タイプの違う浴室が2か所あり、露天風呂の大浴場は、緑豊かな木々を眺めながらリラックスして入浴でき、個室も用意している。利用者はトイレ・洗面台・ナースコールが設置された居室で、馴染みの家具や日用品に囲まれ、穏やかな毎日を過ごしている。裏庭の菜園では、種々の野菜を作り手入れや収穫は利用者の喜びにつながっており、収穫した野菜や果物は日々の食卓を彩っている。調理専門職員が、栄養バランスや個々の嚥下状態に合わせた食事を用意していることで、職員は安心して利用者と同じく働くことができ、働きやすい職場環境となっている。利用者希望のかかりつけ医や協力病院の通院は、職員が付き添いや送迎をしており、事業所には看護師が勤務し利用者の健康を支えている。質の高いケアの提供と共に、利用者本位を実践している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットホール、詰所に掲示し、新任研修でも説明し、職員全員が理念を共有し実践出来る様に努めている。	理念と運営方針は、各ユニットの目立つ場所に掲示し、運営方針はパンフレットに明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入し近隣施設のお祭りへの参加。地域住民のボランティアの訪問など交流をしている。	町内会に加入し町内の夏祭りや、地域の行事に参加している。事業所には、啓北中学校ボランティア部や地域住民によるハンドベル演奏等の訪問もある。	旭川市の福祉村に位置しており、地域には民家が少ない。地域との付き合いとして、一番近い隣接のグループホームとの相互交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習の受け入れを行い、入居者様と地域の方との交流により認知症の理解を深めてもらおうと努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、家族・地域包括支援センターの方などを招き事業所の活動報告(行事報告や研修報告等)も行っている。その中で参加者より助言や意見を頂きサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2か月に一度開催し利用者・家族代表・町内会長・地域包括支援センター職員等が参加し、利用者の活動状況や避難訓練の結果等を話し合い、ケアサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での、包括支援センターの参加など協力体制を得る様にしている。	行政への提出書類等は、市役所に出向き手渡しており、地域包括支援センターとはケアサービスについて相談し、協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はおこなっていないが、事故防止の為センサーを設置している。夜間は防犯上施錠している。マニュアルを整備し、勉強会を行い職員の身体拘束への正しい理解を促している。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で介助方法について、細かい事でも注意しあえる環境作りをしており、事業所内で虐待が見過ごされることがないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んだ事を活かせる様に努めて、資料なども他スタッフにも閲覧するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり見学を行い、その都度説明を行い納得された上で契約を行っている。変更点はすみやかに連絡し書面を郵送している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様には普段から話しやすい環境を作り、意見・要望等を確認している。その他、貴重な意見等についてはご意見箱を設置し運営に反映させるよう努めている。	利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞いており、広く意見を募ることができるように苦情箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自由に話し合える環境を目指しミーティング等で意見や要望を聞き反映できるよう努めている。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに充実したケアサービスを提供するために、業務の流れに沿った申し送りを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	認知症実践者研修や市内・道内で行われる北海道認知症グループホーム協会関係の研修会にて該当する研修を受講している。また、それ以外の研修会や試験の受験等についても希望に応じて勤務の調整を行うなど必要な支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修など、できるだけ多く参加できるよう勤務表の調整等行っている。又、内部研修でも他事業所の専門職の方を招き、講義を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や活動に可能な限り、参加し交流を持てるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや事前の本人の資料を職員間で情報を共有している。又、日常会話の中で困っている事、要望等を確認しできるだけ要望に沿えるよう検討を行い入居者様が安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、事前に施設見学をして頂き、御家族様、ご本人と話し合い不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に御家族や居宅支援事業所などからの情報を得るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で食事の準備や洗濯物たたみ等、一緒に過ごしています。昔の歌や昔話、四季の行事などを一緒に楽しんでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や夏祭りなどのホームの行事に参加していただいたり、気軽に訪問していただける雰囲気作りと信頼関係作りを大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族が同伴し墓参りやスタッフが送迎支援をし、法事に外出し馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	食事の後片付けや菜園作り等、利用者の生活歴・興味・意向に応じた場面作りをしており、ボランティアの訪問も楽しみ事となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同志の関係について、全スタッフが共有出来る様に申し送り等にかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、ホームで生活されていた時の写真を送ったり、状況に応じて荷物の搬送などのお手伝いをしている。契約終了後も御家族との関係を大切に、必要に応じ相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	もし、自分であれば、どう感じるかを常に念頭に置き安全を確保しながら、入居者様の尊厳を大切にプライバシーへの配慮を行い個々に合わせた声掛けや選択ができるような声掛けを行っている。	職員は、個々のアセスメントを共有するとともに、日常の希望・意向・嗜好を受け止め、家族からの情報を得て、利用者本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など、ご家族から情報を得てサービス提供が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や入居者様の行動を出来るだけ把握し変化があれば申し送り等により情報を共有している。又、カンファレンスでも、状況等の振り返り等を行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で日常の支援にあたり気づいた点やアイデア等を話し合い、本人の意向になるべく沿った介護計画の作成に努めている。又、御家族様の面会時等にも希望や意向を確認し介護計画作成に活かしています。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について、家族・職員・医師・看護師と話し合い、利用者がより良く暮らせるための、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別のケース記録に記入し、全スタッフが共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況変化によって、その都度柔軟に受診や外出等の支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が民謡・マジック・クリスマスなど慰問に来てくれて、入居者様を楽しませてくれます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関を受診先としている。通院には必ず、職員が同行し支援を行っている。	利用者希望のかかりつけ医や協力病院の通院は、職員が付き添いや送迎をしている。事業所には看護師が勤務し利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや気づきなど、入居者様の状態を看護師と共有し相談しながら受診などの支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会や病院と連絡を取り、状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から、ご本人、御家族様と連絡や話し合いを密にとるよう心掛けている。医療機関や関係者とは、都度、連携し、事業所として、出来る限りの支援を行っている。	本人や家族の意向・要望をもとに、協力医療機関との連携体制を含み、重度化や終末期への方向性や指針を文書で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアル化している。AEDの使用方法を勉強会で学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行い、職員への周知を徹底させている。	消防署の協力のもと、昼夜を設定した避難訓練を実施し、全職員や町内会長が訓練に参加している。夜間帯の火災対応マニュアルも作成している。	地震や台風等の災害では、道路が通行止めになる可能性もあり、事業所や地域で数日を過ごすことも考えられる。非常持ち出し袋や飲料水等の災害時備蓄品の準備や、隣接するグループホームとは、助け合いのできる協力体制を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別性を重んじ、プライバシーはもちろん、個々の自尊心を傷つけない対応を心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、個々の状態にあわせた声掛けや、対応に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いや希望を取りくみ、本人の出来ない部分のお手伝いや、出来る部分を活かした働きかけをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアに取り組み、その方の希望を大切に、その方のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に関しては、訪問理美容の方がほとんどである。外出や行事の時にはおしゃれを楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり作り、食器の後片付けなど、その方のできる力の範囲でお手伝いをいただいています。普段のメニューでは好みを聞いたり、誕生月の入居者様には好きな食べ物を提供している。	調理専門職員が作る食事は、利用者の意見や嗜好を取り入れ、栄養バランスやカロリーに配慮し、食欲が出るように見た目にも美しく盛り付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、それぞれの入居者様に合った分量や形態の食事を提供できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の口腔状態や能力に応じ、口腔ケアを実施している。必要に応じて、歯科受診や往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムが把握できる様に努めている。ご本人の状態に応じ、声掛けやトイレ誘導を行っている。	しぐさや習慣から個々のパターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。各居室にはトイレが設置されており、清掃も行き届き清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、毎日の水分量や個々に応じた下剤の服用をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、月、木曜日を入浴日としているが、ご本人の体調や希望を確認して入浴支援を行っている。	大きな窓がある露天風呂の大浴場で、リラックスして入浴しており、身体の状態に合わせ、個浴室も利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し日中の活動を増やし、夜間休息安眠できるよう努めています。各自の居室、ホールソファでも休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって薬を管理し個々のファイルを作成しその中に薬剤表を入れダブルチェックにて服薬している。内服の変更や追加についても、口頭以外にも連絡ノートにも記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の植木を居室で育てたり、洗濯物たたみやおしぼりたたみ等個々に合った役割を持って行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園への散歩、買い物、行事を通し、外出の機会を持てるよう支援しているが、入居者様の介護度が年々上がり、外出できる機会が減ってきている事も現状である。	季節や天候に合わせ、外気浴や近隣の公園まで散歩に出掛けている。町内会行事の参加や、利用者の希望によりプラネタリウムや、北鎮記念館に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状管理出来ない方がほとんどになってきているが、管理能力のある方には、少額所持して頂いている。買い物の希望がある場合にはスタッフと一緒に出かけ、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、自ら電話を掛けていただける様、御家族とも相談して行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天窓があり、明るく季節や行事などの写真、展示物などを飾りつづる様配慮している。	玄関・居間・キッチン・浴室等は広くゆったりとした造りになっており、温度・湿度に気を配り、リビングはエアコン完備で快適な居住空間を作っている。前庭にはベンチやテーブルが置かれ、日光浴や暖かい日のティータイムに利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテレビの空間とレクリエーションを楽しむ食卓空間とに分け、本人の気分に応じて共有空間を利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物、馴染みのあるものを居室に持ち込んで頂いたり、御家族との写真などを飾る様にしている。	各居室にはトイレ・洗面台がありナースコールも設置している。馴染みの家具や日用品を持参し、家族写真や手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるように配慮工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー構造とし、手すりやスロープも必要箇所に設置している。		